

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(11月9日～11月15日)

2021年11月24日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領が欧州向け天然ガスの供給停止の可能性につき言及(11/9)。
- ルカシェンコ大統領が「移民」問題に関してメルケル独首相と電話会談(11/15)。
- マケイ外相、クリミアは、現実において、ロシア領であると理解している旨発言(11/10)。
- 中国から COVID-19 ワクチン 150 万回分が到着(11/11)。

【ルカシェンコ大統領動静】

●欧州向け天然ガス供給停止の可能性に言及

・ルカシェンコ大統領は、閣僚会議との会合の席上、EU がベラルーシにとって受け入れられない制裁を追加するつもりなら、欧州向け天然ガスの供給を停止する旨発言。

・11/13、プーチン露大統領は、欧州向けガス供給の停止につき、ルカシェンコ大統領から一切聞いてはいないとして否定。

(11/9 大統領府、11/13 Zerkalo)

●露「国防」誌に対するインタビュー

大統領は要旨以下を述べた。

(1)「移民」問題

・軍事的緊張が高まる中で対応を誤るなら、核大国であるロシアを渦中に巻き込むことになる。

・西側に移民を呼び寄せているマフィア組織がある。また西側諸国の高官も移民を呼び込んでいる。西側は自ら移民を呼び寄せておいて虐待している。

・西側諸国が結託して中近東の国家を破壊したため、破壊された国々の人々が欧州に急行している。

・西側は、自らの国内問題から国民の目を逸らせようとして移民問題を煽っている。この問題は二度の世界大戦に比べれば小さな出来事。

・西側は、ベラルーシとのリアドミッション条約(渡航先国で在留資格がないと判断された人物の渡航元国への再受入に関する条約)に違反した上に脱退した。同条約によってベラルーシ国内で建設中だった施設もそのままになっている。

・ベラルーシ国営「ベラヴィア航空」はただ一人の移民も運んではない。

(2) 憲法改正と権力委譲

・自分(大統領)は全ベラルーシ国民会議の成員となり、大統領や大臣の職は新たな世代のために残しておきたい。

・同会議が最高裁判所長官及び判事を任命するよう新憲法に明記したい。

・同会議には、宣戦布告と終戦宣言布告、軍の国外派遣、大統領の弾劾、中央選挙管理委員会の形成等の権限を委譲したい。

(11/9 大統領府、11/14 Zerkalo)

●プーチン露大統領と電話会談

・二国間の当面の課題、両国の統合に関する問題につき双方の立場を調整。

・ベラルーシ・ポーランド国境における状況、ポーランド側の残虐行為、国境地帯へのポーランド側常備兵力の集結に対する懸念等につき詳細に協議。

(11/9 大統領府)

●メルケル独首相と電話会談

ベラルーシとポーランド・リトアニア・ラトビア各国との国境における移民を巡る状況、その解決法と見通し、移民に対する人道的サポート等につき約 50 分間協議。

(11/15 大統領府)

●憲法草案の作業グループとの会合

・11/15、憲法草案を作成する作業グループとの会合を実施。大統領は要旨以下を述べた。

・如何なる政治的な革新でも最終的に主権国家ベラルーシの発展及び福祉のための条件を構築しなければならないと指摘し、国民投票の前に社会アンケートを実施するよう提案。

・一方で、同会合では、多くの時間がベラルーシ・ポーランド国境の移民問題に充てられ、「休日中もこの問題(移民に対する人道支援)に取り組んだ。我々は、子供や妊婦に食事を提供している。薪や必要なものも提供している。我々は、以前のように、ベラルーシ国営『ベラヴィア航空』を含む航空機に移民全員を搭乗させる準備がある。また『ベラヴィア航空』で移民たちをミュンヘンに輸送することも出来る」と述べた。

(11/15 大統領府)

【外交】

●ベラルーシ当局関係者に対する EU 査証発給体制の簡素化の中止

・EU は、ベラルーシ当局関係者に対する EU 査証発給体制の簡素化を停止した。同決定はベラルーシ当局のハイブリッド攻撃への対応によるもの。

・同決定は、EU 査証発給体制の簡素化に関する合意による恩恵を利用する一般のベラルーシ人には言及されていない。

(11/9 Zerkalo)

●マケイ外相、クリミアは、現実において、ロシア領であると理解している旨発言

11/10、マケイ外相は露リア・ノーヴォスチへのインタビューにおいて、「クリミアに関するベラルーシの立場はこれまでどおりである。我々は現実において、クリミアが今やロシア領であると理解している。このことを踏まえようではないか」と述べた。

(11/10 ベルタ通信)

●フィセンコ駐仏ベラルーシ大使が解任

国連教育文化機関(UNESCO)ベラルーシ代表としては留任。

(11/12 Zerkalo)

●マケイ外相とボレル EU 上級代表との電話会談

・ベラルーシ側から対等かつ相互尊重に則った対話の用意があり、制裁はベラルーシ・EU 関係進展に寄与しない旨強調。

・ベラルーシ・EU 国境における移民を巡る状況につき協議。マケイ外相から、ベラルーシ側の取り組み、人道支援、国連機関との連携等につき伝達。

(11/14 外務省、Zerkalo)

●「ベラヴィア航空」に対するリース契約の破棄

・EU の対ベラルーシ制裁は、ベラルーシ国営「ベラヴィア航空」とのリース契約の破棄を含む予定。

・コーヴニー・アイルランド外相によれば、航空機を返す必要があり、反対する場合は、同企業に対する法的措置が取られることになる。

・「ベラヴィア航空」の保有している 30 機の航空機のうち、17 機がアイルランド企業を通じてリースされている。

(11/15 Zerkalo)

●EU 理事会、対ベラルーシ制裁リストの掲載基準を拡大

・EU 理事会は、政治目的での人々の利用に対して迅速に反応できるよう、EU とベラルーシとの国境での状況を考慮して、制裁リストへの掲載基準を拡大。

・ボレル EU 外交安全保障上級代表は、現在、EU は、EU 国境外の不法な越境に関与している個人及び法人に対する措置を採択することが出来ると述べた。

・リンケヴィチ・ラトビア外相は、EU は第 5 次対ベラルーシ制裁に関して合意に達し、第 6 次について議論したと述べた。

(11/15 Zerkalo)

【内政】

●非政府系団体・個人に対する捜査・閉鎖等

・「ベラパン通信」が過激組織と認定された。

(11/12 Zerkalo)

【治安・軍事】

●ベラルーシから周辺国への不法移民の急増

全般

・独連邦警察は、初秋以降、「ベラルーシ・ルート」で独に不法に入国を試みた件数が 8000 件を超えたと発表。

ベラルーシの動き

・11/9、グラス外務省報道官は、現状は西側によるイラク等の強制的民主化の結果であるとして反論。越境を試みる移民のポーランド側による強制排除を非難。

・11/9、国防省は、前日に在ポーランド・ベラルーシ大使館付国防武官がポーランド国防省に召喚されたことを踏まえ、ベラルーシは対話を呼びかけているがポーランド側から反応がないこと、ベラルーシ・ポーランド国境に 1 万人もの軍人が事前通報もなく配置されていることを非難。

・11/9、クブラコフ内相は、移民が急増しているもののベラルーシの社会秩序は国境地帯を含めて保たれていること、移民は全員が合法的にベラルーシに滞在していること、国境地帯での発砲については情報がないこと等を述べた。

・11/15、グラス外務省報道官は、ベラルーシ当局が、同国経由での EU 諸国への不法移民の流れを減少させる措置を講じている旨指摘し、「一連の国家の国民に対するビザ取得の規則を厳格化し、追加の入国審査を導入し、旅行会社の活動に対する監視を強化した。その他の措置も実施されている」と述べた。

航空各社の動き

・11/11、クモフ・ポーランド大統領府報道官は、「ターキッシュ・エアラインズが今後、外交旅券保持者を除き、イラク、シリア、イエメン国民をミンスク行きの便に搭乗させないことを確約した」とツイート。

・11/12、ベラルーシ国営「ベラヴィア航空」はトルコ側監督機関の決定に則し、11/12 からイラク、シリア、イエメン国民のトルコ発ベラルーシ行きの便への搭乗を停止。

・11/14、「ベラヴィア航空」はアラブ首長国連邦(UAE)側監督機関の決定に則し、11/14 からイラク、シリア、イエメン国民のドバイ発ベラルーシ行きの便への搭乗を停止。

・11/14、シリアの航空会社 Cham Wings Airlines は自

社 Twitter において、ベラルーシ就航便を全便運航停止にする旨発表。

(11/9-15 外務省、ベラヴィア航空、Zerkalo)

●入国者数に対するベラルーシ当局の見解

・ブィチコフスキー国家国境委員会代表は、2021 年 8 月以降、ベラルーシに入国した移民は、約 8000 人もいないとして、「明白な数字がある中で、ベラルーシ当局により移民の流れが組織されているというEU 側の非難を聞くことは全くおかしなことだ」と指摘。

・同氏によれば、同時期に合法的にベラルーシに入国した約 5000 人の外国人は移民法違反を阻止するための対策の結果、国内から出国した。

(11/15 Zerkalo)

●国境沿いの防空軍の強化

・国防省は、西部及び北西部の国境沿いの防空軍の人員を増加させ、露航空宇宙軍の航空機を誘致して領空を定期的にパトロールする予定であると発表。

・一方で、露国防省は、このようなフライトの定期的な実施について発表しておらず、露の航空機は連合国家統一地域防空システムの検査に参加したとだけ指摘。

・露国防省は、掲げられた全ての課題は完全に実施されたと強調。

(11/10 Zerkalo)

【経済】

●Fitch Ratings、ベラルーシの長期ソブリン格付を発表：B/ネガティブ

・国際格付機関「Fitch Ratings」は、ベラルーシの長期ソブリン格付を「B」と据え置き、見通しはネガティブと発表。

・専門家たちは、ポジティブ要素として、実行中の経済政策の改善及びベラルーシによる債務返済を指摘。

・ネガティブな要素は、低い外貨準備高、高い対外公債、銀行部門の問題。

・アナリスト達は、ベラルーシの 2021 年の外貨建ての返済総額は管理されていると見ている。

・返済額は 27 億 7000 万ドルであった(8 億 8000 万ド

ルが第1四半期に支払われた)。

・23億9000万ドルの対外債務のうち、約45%が露、17%がユーラシア安定化発展基金、22%が中国である。

(11/9 Zerkalo)

●ユーラシア開発銀行は、本年のベラルーシの年間インフレ率を10%と発表

(11/15 Zerkalo)

●中国国際輸入博覧会(CIIE)へのベラルーシ・パビリオンの出展

・11/5-10、上海にて開催。

・国営食品産業コンツェルン「ベルゴスピシェプロム」による製菓・食品産業関連を中心に、IT、医療、科学技術等を展示。

(11/5 商工会議所、ベルタ通信)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の動向

・シヨルツ独副首相と会談

・ドゥダ・ポーランド大統領と電話会談

(11/9-10、ベラパン通信)

【その他】

●ICAO、ライアンエア機強制着陸事件の最終報告書の審議を延長

・国際民間航空機関(ICAO)は、ライアンエア機強制着陸事件に関する最終報告書の審議を2022年1月まで延期。

・同決定の主な要因は、提出されたデータが大量であり、追加で解析する必要があるため。

(11/9 Zerkalo)

●11/12 現在でのベラルーシ国内の政治犯の数は847人。

(11/12 ベラパン通信)

●「国薬集団(Sinopharm)」とのコンタクト

・11/3、セニコ駐中国ベラルーシ大使が劉敬楨「国薬

集団(Sinopharm)」董事長と会談。両者はCOVID-19感染状況につき意見交換するとともに、今後の協力につき協議。

・11/10、セニコ駐中国ベラルーシ大使は劉董事長の招待により、「北京生物製品研究所(Beijing Institute of Biological Products)」を訪問。同研究所では、COVID-19 ワクチン Vero Cell を含む様々な医薬品を生産している。

・視察後の会談では、ワクチン、医薬品、医療機器の分野における今後の協力につき協議。

(11/4、10 在中国ベラルーシ大使館)

●中国からCOVID-19 ワクチン150万回分が到着

・11/11、ベラルーシ保健省が中国から調達したCOVID-19 ワクチン150万回分が、ベラルーシ空軍の輸送機により到着。

・その内50万回分が、注射器50万回分と合わせて、中国からの無償資金援助として提供された。同日、ピネヴィチ保健相と謝小用・駐ベラルーシ中国大使が引き渡し式典に参加。

(11/11 ベルタ通信)

●国家科学技術委員会と中国科学技術部は、2022年から2023年にかけて、両国共同科学技術プロジェクトのコンクールを実施。

(11/15 ベルタ通信)

(了)